

## 川根本町の木材を活用した地域創造

静岡文化芸術大学 デザイン学部 黒田ゼミ  
指導教員：教授 黒田宏治、教授 佐井国夫  
参加学生：安藤かすみ、宮本侑美、吉野晞

### 1. 要約

川根本町は、静岡県中部に位置する町である。2,000mを超える山々が連なる南アルプス国立公園の最南端に位置し、町域の9割を森林が占め、大井川が町の中央を南北に流れている。年々人口の減少、高齢化が進む中で、町内の山々を管理・継承していくのが難しい現状である。これを踏まえ、今回は川根本町役場・関連団体との協力を得て、我々学生が町の木材資源の利活用方法について、若者目線、またデザインを学ぶ学生目線から調査・検討し、木材資源の可能性を企画・提案した。

### 2. 研究の目的

川根本町・関係団体との連携・交流のもと、デザイン系学生による地域資源の調査・評価等を行い、木材資源の利活用の可能性を企画・検討する。若者をターゲットに木材加工製品に加え関連応用、プロモーション活動も視野に入れた。

### 3. 研究の内容

- (1) 参加学生による現状資料調査からの川根本町における木材資源利活用の課題、調査視点の抽出・検討。
- (2) 参加学生による町内現地調査（観察、体験、取材等）や他地域参考事例調査を行い、商品企画・販促アイデア展開をした。また、川根本町・関係団体との連携グループ活動も検討。

現地調査期間：9月25～26日、前田製函所、中澤製函所、インテリア茶箱、木の駅等  
11月15～16日、観光協会、南アルプスあぶとセンター、教育委員会等  
1月12～13日、木の駅、森のコテージ周辺の森林等

- (3) 木材加工商品企画案（パッケージ、紙関連等も検討可能性）、木材利活用プロモーション展開案（コミュニケーションツール、イベント等）のデザイン制作（一例として）。

### 4. 研究の成果

本研究では、参加学生が各自、川根本町の木材資源を利用した、木材加工商品を企画・提案する。参加学生チームによる現状資料調査から町内現地調査を行った後、各自、課題の抽出・検討を行い、再調査を経て、それぞれの企画・提案を行う。参加学生チームの内、2名は川根本町で近年増加傾向にある若年層観光客向けの土産物を木材資源、それらの廃材を利用した木材加工製品として提案する。もう1名は町内の若者をターゲットに、教育の観点から川根本町の自然や木材について知ることのできる絵本を制作する。次頁から、各自の調査結果、課題提案、成果物に至るまでの過程、成果物について、今後の改善点等、各自でまとめたものを記述する。

## 川根本町の間伐材を利用したお土産・ミニワークショップの提案

静岡文化芸術大学 デザイン学部 3年

安藤かすみ

### ①現地調査、資料調査による課題の抽出

現在、川根本町にある木の駅かわねでは、「森林の整備促進、地域通貨による地域経済への貢献」「集落、茶園周辺の環境改善の促進」「小規模、副業的自伐林業の復活への足掛かり」を目的として間伐材の集荷を行っている。現在までの集荷した間伐材はほぼ島田市内にあるチップ工場に引き渡しており、町内での消費には結びついていない。また、観光に関して、平成26年以降観光客数は増加し続けている。近年では、SNS利用率の増加に伴って夢の吊り橋が人気となり、20代女性の観光客が増加した。

そこで、川根本町の森林資源と観光の相互作用によって、町内での木材の利活用促進につながるのではないかと考えた。

### ②提案内容

20代女性をターゲットとした、間伐材を利用したお土産とミニワークショップの提案を行う。

#### お土産

動物をモチーフとした木のイヤリング・ピアス。基本的な種類はライチョウ（夏毛・冬毛）・オコジョ・モモンガ・ニホンリスの計5種類で、これらは全て川根本町に生息している動物である。他に、葉型や雪の結晶型など自然を表したパーツがある。パッケージには、川根本町で昔から作り続けられている茶箱をミニサイズにしたものを使用する。



#### ミニワークショップ

左右のパーツを自由に選び、自分でアクセサリパーツとの接着や連結を行う。絵具を用いて色を付けることもできる。お土産やの一角に小さなスペースを設け、気軽に使えるようにする。



### ③今後の展開・課題

間伐材をお土産として利用して町内で消費することで、地域内での経済活動の活性化させることが可能になると考える。

今後は、ネックレスやブローチなどへの展開、パーツの種類を増加を考えている。また、販売場所と同じ場所でミニワークショップを行うため、場所の選定が重要となる。

## 川根本町の間伐問題について川根の木の廃材を使った提案

静岡文化芸術大学 デザイン学部 3年

宮本伶美

### ①提案内容

川根本町の地域の産業復興、雇用創出するには、まずその土地に住む子どもたちに現状をしっかりと、木の大切さを感じてもらわなければならないかと考える。

実際に川根本町教育委員会の方々に、子どもたちが木と触れ合う機会があるのか調査をした結果、「川根本町ふるさと発見団」や、「海の子・山の子交流教室」などのイベントが多数あり、小学5年生では総合学習で川根の木について学ぶことがわかった。しかし、小学5年生までは、親や子どもたちが自主的に動かなければ体験できないことが多い。そこで、小学校低学年の子どもたちに日常的に川根の木の大切さを感じてもらいたいと考える。

### ②成果物

絵本をつくる。

内容について

表 川根本町によく生えているスギの木を主人公にした間伐問題をテーマにしたストーリー。

物語の登場人物には、川根本町に住む動物たち(カモシカやライチョウ)が登場する。



裏 森の楽しさを遊びながら感じてもらえるように、森のイラストの中にいろいろな顔をちりばめて、それを想像、発見できるようにした。

また、川根にゆかりのあるいろいろな昔話のイラストも登場させ、川根の伝統も学べるようにした。



小学校の各教室、図書館に置き、日常的に木と触れ合う機会をつくる。

### ③今後の課題

今回の提案は、まずは地元の子どもたちから川根本町の間伐問題について理解を深めてもらいたいということだったので、次に地元外の人たちにいかに興味をもってもらえるかが課題になってくると考える。

対策としては、お土産として絵本を売り、観光客の人々にも川根本町の間伐問題を少しずつでも知ってもらえる機会を増やしていく必要があると考える。

## 廃材を使用した若者向けの川根本町土産 – 「香り」のデザイン – 『カラルカワネ』

静岡文化芸術大学 デザイン学部 3年  
吉野暁

### ① 背景・調査結果

近年、「夢の吊り橋」等の影響で、川根本町には多くの若年層観光客が訪れるようになった。しかし、多くの若者達は目的地を訪れた後、川根本町に留まらず、すぐに次の目的地へ行ってしまふ。そのため、若者達がもっと町に触れてみたいと思うきっかけになるような話題性のある製品を作りたいと考えた。私が現地調査で川根本町「木の駅」を訪れた際、鉋をかけた後の廃材や木屑は燃やすか肥料にするだけの使い道しかないということを知った。しかし、これらはとても香りが良く、木は種類によって様々な香りがある。そのため、〈木の香り〉という新たな視点で、木材加工製品の提案をしたいと考える。



### ② 課題提案・目的

木材資源の廃材を利用した、若者向けの香りを使った土産物の提案ということで、私は様々な検討の結果「モバイル型ディフューザー」を企画・提案する。香水やディフューザーのように「香り」は若者にニーズがあると考え、また香りは記憶力とも密接に繋がっていることから、土産物に活用するには最適の効果だと考える。廃材を使用することで、川根本町の間伐材利用や木材の活用方法についての新しい提案となるように提案する。

### ③ 成果物について

縦横 10cm 程度の置き型モバイルを制作する。若者が魅力を感じ、手軽に購入しインテリア・旅の思い出として楽しんでもらえるものを目指す。川根の代表する自然（木々と星空）をモチーフに、木の香りを抽出した液体ボトルもセットにすることで、木の香りを使用したリラクゼーション効果と川根本町の思い出を見た目と香りで楽しんでもらう。販売場所は川根本町の土産物屋や駅、旅館等を想定。製品は香りの特に良い、ヒノキ・サクラ・カシワの3種類で企画する。

### ④ 今後の課題

もう一つの川根本町名物「お茶」等とコラボレーションできないか検討。また、川根産の木が町を循環し、活性化できるようなシステムにこの製品をどう組み込むか検討が必要。